

## 小規模校 児童数増を

若狭町・規模配置検討委

住民対象にアンケート

若狭町の第2回学校規模配置適正化検討委員会が10日夜、町役場上中庁舎で開かれた。児童生徒や保護者、地域住民を対象に行ったアンケートの結果が公表され、複式学級があるなど小規模な小学校ほど、豊かな人間性や社会性を育むため児童数増を望んでいることが報告された。

アンケートは5月上旬までに小学6年、中学3年と保護者、18歳以上から無作為で選んだ町民の計2445人を対象に実施し回収率は約83%。クラス人数が適正か、教育環境として重要と考えることなどを質問した。委員会には委員16人が出席し、事務局の町教委が結果を報告。児童数の



アンケート結果が報告された学校規模配置適正化検討委員会＝10日夜、若狭町役場上中庁舎

少ない明倫や梅の里、熊た。学校生活で社会性や川、野木小校区から児童規範意識を身に付けること増を望む意見が多かつが重要との回答が多

く、一定程度の児童生徒数を確保する学校環境が望ましいとした。

委員はアンケート結果を基に意見交換会を非公開で実施。現場の実態把握に向け、校長や教頭からの意見聴取を今秋ごろに行う。

同町の小学校1校あたりの児童数は82人(昨年5月現在)で県内最小。推計では2030年までに全10校で児童数が100人を切ると予測されている。

(成実宏二)